

# 國學院大學學術情報リポジトリ

シンポジウム 発題1 高等学校における国語教育：  
千葉商科大学附属高校の事例をもとに

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 後藤, 美絵 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001323">https://doi.org/10.57529/00001323</a>

〔発題1〕

## 高等学校における国語教育

### 千葉商科大学付属高校の事例をもとに

千葉商科大学付属高等学校教諭 後藤 美絵

#### 千葉商科大学付属高校の現状

本日は、「高等学校における国語教育」と題し、簡単に本校の授業実践例を報告させていただきたいと思えます。具体的には、本校で行っております二年次、三年次の授業「国語表現」の実践例が中心になるかと存じます。

その前になぜ本校において、二年、三年と二年間連続で「国語表現」をやっているのかという点を、本校の現状、卒業後の進路、高校入学前を含めてお話をさせていただいた上で、高校教育における「国語表現」の必要性和、大学進学だけではなく、社会人になったときにどのように生きていくのかという点について、本校の実践例をもとにお話をさせていただきますと思います。よろしくお願いたします。

まず、千葉商科大学付属高校は、千葉県市川市にあり、全校生徒九百人程度の学校です。普通科と商業科を有しております。

す。長らく男子校だったので、平成十六年より共学になりました。現在、男女比が大体二対一ぐらいの割合です。カリキュラム、進路選択の関係から、普通科は、特進クラス・選抜進学クラス・進学クラス、そして商業科は二年次から会計型・IT型というように各コースに分かれていきます。特に普通科の方においては、二年次から、選抜進学クラスと進学クラスは文コース・理コース・総合進学コースと三コースに編成を致します。その上で学校として、特進クラスと文コース・理コースに関しては、一般入試で大学進学を目指すという前提のもとで授業を展開します。一方で、総合進学コースと商業科に関しては、推薦・AO入試などを利用して進学を目指していくクラスになります。そのため、一般入試を中心としたクラスでは大学受験に必要な科目が中心となり、また推薦・AO入試等を利用して進学をするクラスでは検定取得や小論文作成力を重要視した授業内容となります。

本校の卒業後の進路ですが、今年三月に卒業した生徒は二百五十五名おりました。本校は付属高校ということもあり、千葉商科大学に進学をする生徒が四割程度おります。千葉商大以外の大学を我々は「他大学」と呼んでいるのですが、他大学



には学年の約半数が進学を致します。その進学方法は、千葉商大にはほとんどの生徒がAO入試で進学をしていきます。こちらには作文なり面接なりという形で大学へ入学をしていく生徒たちです。また、他大学に進学をする生徒のうち半数が、AO入試または指定校推薦等の推薦入試を利用して進学致します。ですから、学力検査を通して大学に進学するという生徒は、卒業生全体の二五パーセント程度です。

なぜこのように大学進学にあたり推薦やAO入試で進学をしたいという生徒が多いのか。それは、本校に入学してくる生徒たちの入学方法が非常に大きく影響を与えているのではないかと我々は考えております。まず本校への入学は、単願推薦・併願推薦・自己推薦・学力検査の四パターンがあります。特進クラスや選抜クラスでは併願推薦や学力検査を経ての入学が多く、進学クラス・商業科では、ほとんどの生徒が推薦入試で入学してくるのが現状です。

本校の入試は、単願・併願推薦の場合は面接と調査書のみです。自己推薦は基礎学力検査を行います。公立高校と同レベルのものではありません。従って、高校入試で学力検査を全く経験していない生徒が学年の半数を占めています。このため、大学入試に際しても学力検査での進学に尻込みをしてしまう生徒や保護者が多くなります。現実に、現一年生の特進クラスと選抜クラスの人数は学校全体の大体三割弱です。これが学力検査で大学を進学する割合とほぼ同数になるわけです。

そのような状況ですので、本校では三月中旬に入学前クラス分けテストを行っています。単願推薦や自己推薦で入学した生徒の国語力は、併願推薦や学力選考を経て入学してきた生徒と

比べて著しく低いということが現状の問題として挙げられます。このような結果と大学進学状況を鑑み、本校では「国語力」として何を身に付けさせたら良いか、まずは漢字力をしっかりと学習させるべきではなからうかと考え、全校一斉漢字テストを一年に三回実施して、漢字の能力を向上させるべく学習指導をしております。

カリキュラム自体もかなり細かく設定をしています。学力検査を通して受験するクラスは古典を選択致しますし、AO入試や推薦が多いクラスにおいては、「国語表現」の授業を二年次、三年次に設定しています。また、このようなカリキュラムの中で、三年間の学習事項として、ことわざ・慣用句・故事成語・四字熟語・難読語・文学史などを定期考査の範囲に組み込み、語彙力をつけさせる工夫をしております。

## 二年間の「国語表現」授業計画

先程申し上げたように、総合進学コースと商業科においては、二年次、三年次に「国語表現」の授業を設定しております。商業科は千葉商大進学者が非常に多いクラスであり、AO入試・推薦入試等による進学が主流になっていきます。簿記を選択できることもあり、実学的志向が非常に強いクラスです。「国語表現」をカリキュラムに導入することにより、「古典」が履修できないという弊害はありますが、大学入試と生徒の現状を考えますと、「国語表現」をカリキュラムに入れざるを得ないという事情もございます。従って、推薦・AO入試の準備と、大学進学後の基本的な文章力の育成を目的として二年間「国語表現」を



展開しております。

「国語表現」は二年間を通じた授業計画を立てております。まず、二年生の前半では、「人前で発表する」「書くことに抵抗をなくす」ことを目的としています。従って、二年生の二期中間考査までは、自分のことや身近なことをテーマに文章を書かせる、人前でスピーチをさせる、ということを中心に展開します。また、二年生の二期

前半では「調べ学習」を行い、班ごとにレジュメを作って発表させます。二期の後半では、新聞のコラム欄、投書欄などを用いて要旨をまとめたり、感想を書いたり、タイトルを付けたりする、という練習をさせています。そして、二年生の二期に、社会的な事柄についての調べ学習をふまえ、小論文作成へと進めていきます。この時期には、「大学AO入試過去問題」に取り組みます。これは千葉商大のAO入試過去問題を利用して、与えられたテーマをグループで調べ、大学が求めている八百字の小論文を実作するというものです。

三年次になりますと、今度は大学受験を意識した指導が中心となります。一学期の前半は二年生と同様に新聞記事等を用いて意見文を書かせます。一学期後半は、AO入試・推薦入試等にに向けた志望理由書を書く練習を致します。三年の二期前半では、二年次に使った『コラムと論説演習ノート』（京都書房）の実践編を使いまして、文章を読んだ上で小論文を書く練習を致します。そして、三年二期後半では「調べ学習」をした上で

ディベートを行います。「国語表現」はこのような展開で二年間の学習指導計画を組んでおります。

また、各学期に「日本語テスト」を実施しています。これは語彙力を高めるためのものです。『現代語練習帳』ことのは（いずな書店）を使いまして、漢字の書き取り・対義語・類義語・評論文重要語・小説などで用いられる和語などを出題します。二年間かけて、テストとして出題することにより、少しでも語彙力を向上させるのが目的です。

「国語表現」の中間考査は、「論文テスト」です。二年生の一学期は、身近なテーマについて、二学期は是非が問われる問題に対し、自分は賛成か反対かと立場を明確にしたうえで、理由を添えて書かせます。これは二年生二期から三年生一期まで出題します。問題のテーマは当日発表ですので、生徒は五分間で構成を考え、原稿を作らなければなりません。一方で、採点基準は、二年生のうちは三段落構成で書いているか、理由をきちんと書いているか、具体例が書いているか、原稿用紙の書き方、誤字脱字などを総合的に評価します。客観性をもたせるためにも、複数教員で採点をします。三年生も、同様に是非を問う小論文を書かせます。三年生では、理由だけではなく、反駁を入れて四段落構成で書くように指導しています。また二学期は、時事問題を扱った文章を読み、その主張に対しての意見文を書かせます。いろいろなテーマを扱うことで、生徒の視野を広げたいという狙いもあります。

次に、三年生の二期後半は「ディベート」を実施いたします。各担当によっていろいろなやり方がありますが、私は以下のように展開しております。まず、クラスをいくつかの班に

分けます。一クラス一テーマで、賛成・反対を問わずに調べ学習をします。調べるときには図書館を利用します。事前に司書教諭と話し合いの上、テーマに使えるような図書の選択、千葉県立図書館への本の貸出依頼をして、生徒の利用に供します。その上で、各班、例えば一班と二班が前に出て賛成・反対にわかれてディベートを始めます。授業担当者は司会と進行のみを担当し、その他の生徒は全て審判となります。審判の生徒は、それぞれの勝因、敗因、感想などをリアクションペーパーに書いて投票をします。そしてこれらは全て発表者にフィードバックされます。また、ディベート終了後は、使った資料を全て提出させた上で、自分なりの意見を八百字の論文にまとめさせ、二学期が終了します。

### 読ませて書かせることが重要

次に、「国語表現」の授業で生徒が作成したものの具体例を挙げます。これは二年生の二学期に商業科の生徒がまとめた修学旅行の「調べ学習」です。修学旅行先は九州ですので、原爆資料館や太宰府天満宮、また長崎の食文化などを分担して調べました。B4用紙に一人一枚程度でまとめさせたものを、クラス全員に印刷して配布します。班で発表をしたものに対しては、聞いている生徒からリアクションペーパーを取り、発表者たちにフィードバックをします。

次に、三年生国語表現の二学期中間考査の小論文です。『新聞論説演習ノート』（現・『コラムと論説演習ノート』京都書房）に掲載されていたものに、図版等を補って出題致しました。こ

の時の課題は、漫画家の楳図かずおさんの住宅が景観問題に発展して裁判になったことです。それに関わる読売新聞の記事を読み、景観論争、表現の自由に発展させ書かせたものです。

さらに、この「赤ちゃんポスト匿名の是非」は授業内で行った小論文実作です。これも『コラムと論説演習ノート』に掲載された問題を利用し、八百字で書かせました。授業内では、一年間のうちに小論文は各学期一回から二回の添削を実施しています。また、「新聞コラム練習例」のように、天声人語や新聞の投書欄を利用して意見や感想を書かせています。

以上のように、読ませて書かせるということが指導の中心になっています。本校においてはAO入試や推薦入試での進学希望者が七割を占めますので、「国語表現」という科目に対して生徒・保護者のニーズが非常に高いのです。古典などを含めたいろいろな文章を読ませるべきだという考えも教科教員の中では非常に強いのですが、「国語表現」をカリキュラムとして組み込む以上、自ら表現する力、論理的に意見を組み立てる力を定着させたいと考え、実践しております。

本校の「国語表現」で扱っているものは、AO入試のニーズに応えたという部分も多々あります。しかし、これは同時に大学に進学後、レポート作成や学術論文を書く上での基本になると考えます。また社会に出てからも通用する「国語力」を養成する一つの機会になってほしいと思いつつ、我々は日々授業を展開しております。

以上、雑駁ではございますが、本校の国語教育、特に国語表現の授業を中心にお話をさせていただきました。御清聴ありがとうございました。